筑波大学教育研究自主企画

第５回法人化問題シンポジウム

国立大学法人化の現実と展望

日時：９月29日（土）10:00-12:00

場所：総合研究棟Ｂ 公開講義室

（循環バス第１エリア下車徒歩１分）

参加費：無料（どなたでも予約なしで参加できます）

筑波山・筑波大学第一学群・第二学群・第三学群　　写真提供：斎藤さだむ

「明治以来の大学改革」との大号令で進められた国立大学法人化。「様々な面で規制が大幅に緩和され、大学の裁量が拡大する」と喧伝されたにもかかわらず、むしろ自主性、自律性が損なわれているのではと懸念される現実が垣間見えます。とりわけ、法人化後、本学でも若手教員の採用が著しく抑制され、まじめで優秀なポスドクが何年経っても常勤の研究職に就けず、不安な日々を送っています。若手研究者の雇用問題を糸口に、法人化後の現状をどうみるか、国立大学法人の制度の中でその問題点を克服し、メリットを最大限活かすには何が求められているか、独立行政法人の中核で活躍されている識者と語りましょう。

パネリストと講演課題

飯山賢治：（独）国際農林水産業研究センター（JIRCAS）理事長

「法人化で良くなった大学と国立研究機関の管理運営」

伊藤光弘：数理物質科学研究科教授

「理系ポスドクに見る若手研究者問題と科学・技術の将来について」

大井　洋：生命環境科学研究科准教授

筑波大学教職員組合つくば副委員長

「法人化で変わった大学教職員の雇用・労働条件」

油田信一：産学リエゾン共同研究センター長・システム情報工学研究科教授

「法人化の意義と筑波大学の現状 － 産学連携推進の立場から」

主催：法人化問題シンポジウム実行委員会

協賛：筑波大学教職員組合

世話人：齋藤一弥 数理物質科学研究科教授

問い合わせ先：wout@fweb.midi.co.jp